

## 5. 探索犬によるモニタリング及び新規探索犬の育成

### 5.1 探索犬によるモニタリング

#### (1) 目的

これまでの事業結果から、糞や目撃情報等を基にしたわなによる捕獲は効率的であるという結果が得られている。そこで、シェパード探索犬を用いたイタチ糞のモニタリングを実施した。

#### (2) 方法

探索犬はジャーマンシェパード（♀7歳）を使用した。今回、沖縄島にてイタチ糞の特化訓練を事前に行い、糞の探索は昨年度の2018年3月に5日間及び2019年1月に4日間の計9日間実施した（図5-1）。年度により、探索した場所は一部異なる。



図5-1 糞探索犬による探索を行ったエリア

### (3) 結果

探索犬による糞発見状況及び探索経路、糞発見地点を示した（表 5-1、図 5-2～図 5-7、写真 5-1）。平成 28 年 3 月は計 37.6 km の探索を行い、158 個の糞（1 km あたり 19.3 個）を発見、2019 年 1 月は 28.8 km の探索を行い、92 個の糞（1 km あたり 3.2 個）を発見した。特に下地島では兩年通して多くの糞が発見され、伊良部島や宮古島よりも生息密度が高いと考えられた。また、池間島ではこれまでに多数の自動撮影カメラや踏査による糞の収集を実施してきたが、イタチの確認は自動撮影カメラで 1 回、踏査で糞が 1 個のみ確認されたに過ぎない。今回、探索犬により道路のほぼ全域の 18.3 km の探索を実施したが、糞が一つも確認されなかった。これらの事から、池間島には繁殖個体群が存在せず、宮古島からの放浪個体などが少数生息している可能性が高いと考えられる。

表 5-1 糞探索犬による糞発見状況

地域名	距離km		イタチ糞確認数		確認頻度(/km)		
	H30年3月	H31年1月	H30年3月	H31年1月	H30年3月	H31年1月	
宮古島	A	17.4	3.7	27	0	1.6	0.0
	B	3.7	-	6	-	1.6	-
伊良部島		0.8	0.7	1	1	1.3	1.4
下地島	A	12.5	4.5	102	58	8.2	12.9
	B	3.3	1.5	22	33	6.7	21.6
池間島		-	18.3	-	0	-	0.0
総計		37.6	28.8	158	92	19.3	3.2

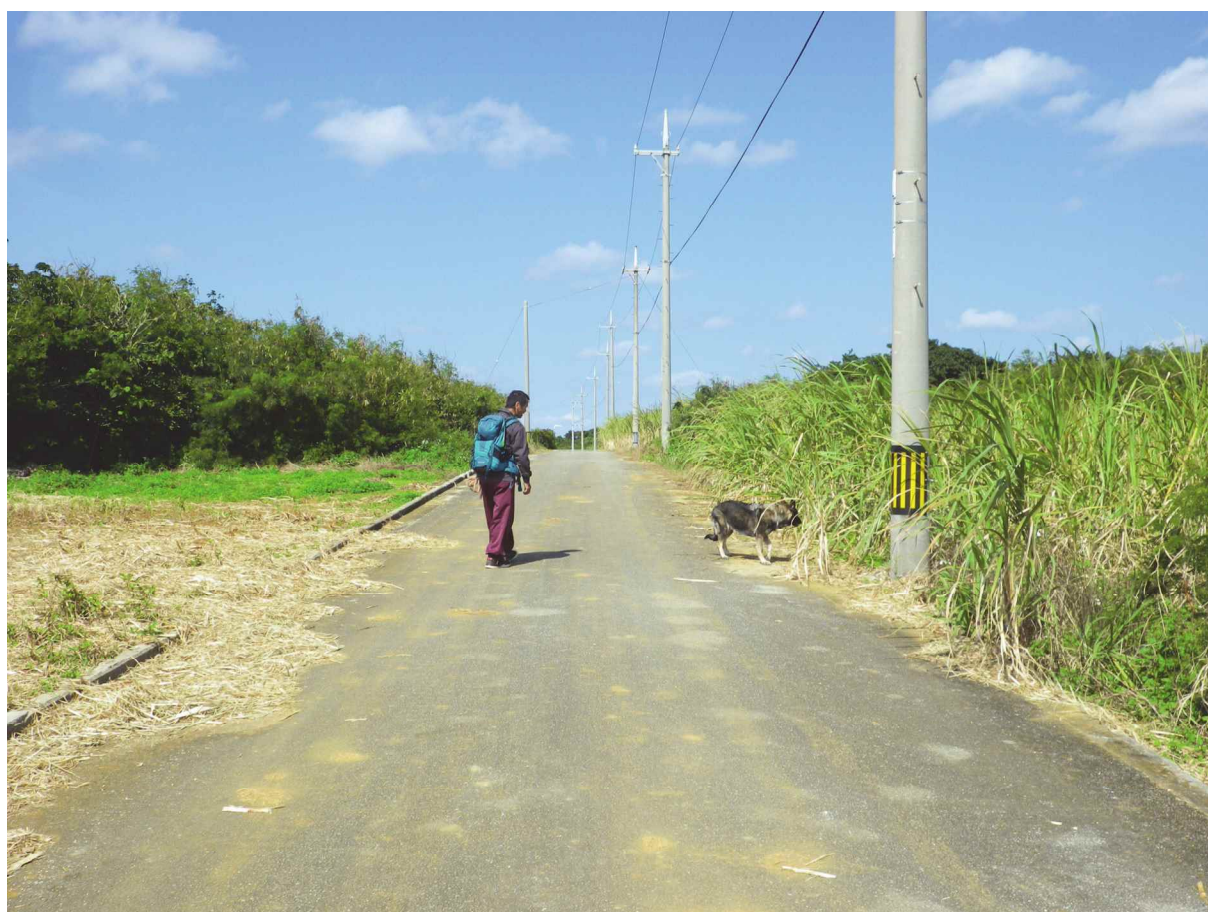


写真 5-1 ハンドラーと探索犬による探索風景



平成 30 年 3 月



平成 31 年 1 月

図 5-2 宮古島 A の探索経路及び糞確認地点



平成 30 年 3 月

平成 31 年 1 月探索なし

図 5-3 宮古島 B の探索経路及び糞確認地点



平成 30 年 3 月



平成 31 年 1 月

図 5-4 伊良部島の探索経路及び糞確認地点

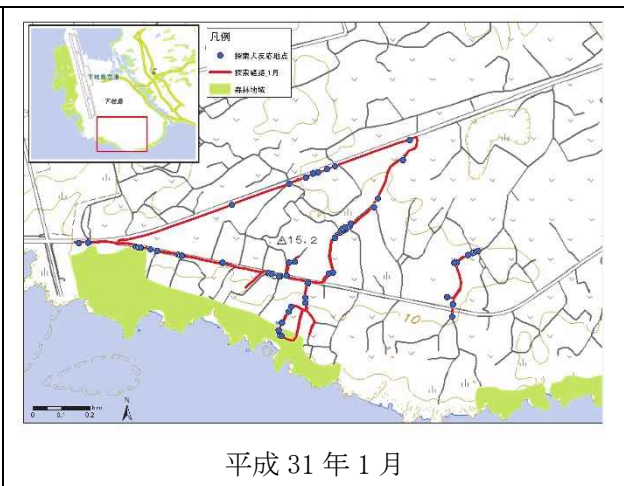
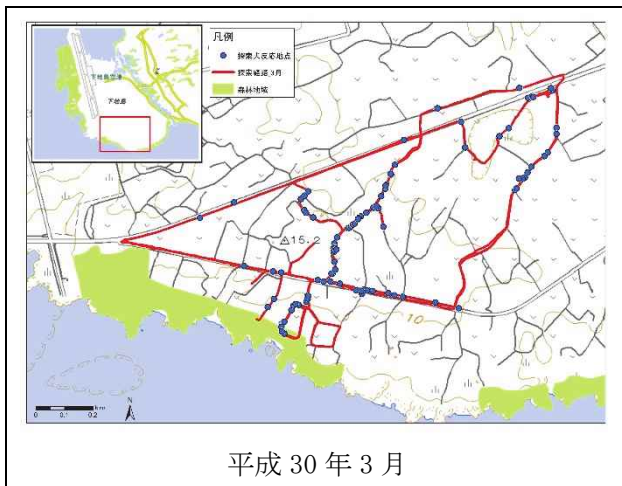


図 5-5 下地島 A の探索経路及び糞確認地点



図 5-6 下地島 B の探索経路及び糞確認地点

平成 30 年 3 月糞探索なし



図 5-7 池間島の糞探索経路